

第1版

株式会社 富士通ビー・エス・シー

はじめに

F*TRAN+(エフトラン・プラス)は、汎用機/オフコン/Unixなどのホストのファ イル転送データと、パソコンの標準であるWindowsファイルとのデータ交換をする汎用性 の高いファイル変換ユーティリティです。Windowsファイル間のデータ変換もできます。

Windows98/95 または WindowsNT/2000上の32ビットアプリ ケーションとして動作します。

ソースプログラム、バイナリファイル、ランダムファイル、プリント形式ファイルなどを変換 する基本機能に加え、コンマ区切り(CSV)形式対応など、市販ソフトとのデータ交換に適し た強力なデータ加工・編集機能を備えています。また、各種漢字コードに対応し、拡張漢字にも 本格対応しています。さらに、COBOLの数値項目等(ゾーン形式、パック形式、2進形式、 BCD形式)にも対応しています。

F*TRAN+は、さまざまなホストとパソコンの連携利用を強力に支援します。その高い汎 用性、高性能、高機能が有効に活用されることを願ってやみません。

F*TRAN+のマニュアルには、導入編、解説編、コマンド編、マルチレコード編、プログラム応用偏(本書)があります。プログラム応用編(本書)の構成はつぎのとおりです。

第1章 OLEオートメーション

OLEオートメーションの概要を説明しています。

第2章 インターフェース

OLEオートメーションのインターフェース仕様を説明しています。

第3章 オートメーションサンプル

OLEオートメーション機能を使った利用例を説明しています。

All Rights Reserved, Copyright[©] Fujitsu B S C 1997-2000

第1章 OLEオートメーション

次

1.1	OLEオートメーションとは?	2

第2章 インターフェース

目

2.1	インターフェース	4
	インターフェース	4
	全体の流れの参考図	5
	IFtCmdのメソッド	6
	IFtSinkのメソッド(コールバック)	1 0
	IFtQuitのメソッド	1 3
	メッセージボックス、ダイアログボックスの種類	1 4
	メッセージボックス、ダイアログボックスのボタンタイプ	1 4
	メッセージボックス、ダイアログボックスの戻り値	1 4
2 2	リターンコード	1 5

第3章 オートメーションサンプル

3.1	Visual	C + +のサンプル	. 1	8
3.2	Visual	B a s i c のサンプル	. 2	1
3.3	Excelのt	トンプル	. 2	4

本書で用いる表記法

本文と画面のパラメータ類の表記法

{ A B C }	A、 B、またはCのうち、どれか1つを選択します。 省略はできません。
A B C	同上。
(A/B/C)	同上。
[A]	Aは省略できます。
[A/ <u>B</u> /C]	A、B、またはCのうち、どれか1つを選択します。 省略が可能で、その場合、下線を引いたBを選択した
	ものとみなします。
<u>B</u> C	同上。
(A/[B]/C)	同上。ただし、[]でくくったBを選択したものと
	みなします。
х •••	X 類を A B C のように列挙します。
n、 n n、 < n >	10進数を指定します。
	(< > は表記上の記号で、入力はしません)
ххH	16進でxxです。Hを省くこともあります。
	改行を意味します。リターンキーのシンボルです。
<u>a</u>	下線部を入力します。
<u>abc</u>	下線部を入力し、リターンキーを押します。
CTRL+A	コントロール(CTRL)キーを押しながら、Aキー
	を押します。コントロールAと読みます。
^ A	同上。
d :	ドライブA:やC:など、任意のドライブ指定を表し ます。

注意 ---- 実画面と少し差異がある

本書に示す画面と実際の画面には、若干の差異がある場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

第1章

OLEオートメーション

第1章 OLEオートメーション ——

1.1 OLEオートメーションとは?

F*TRAN+ V3.0より、OLEオートメーションのインターフェースが提供されてい ます。このインターフェースをアプリケーションから利用することで、F*TRAN+をユーザ アプリケーションの「部品」として使用することができ、F*TRAN+の処理を細かにコント ロールすることができます。

OLEオートメーションを使わないF*TRAN+の利用(従来の方法)

Visual Basic、	起動	
C/C++ などの		F*TRAN+
アプリケーション	リターン	(FP.EXE)

F*TRAN+を外部プログラムとして起動し、プロセス終了後のリータン(正常、エラーの どちらか)を取得する。細かいコントロールはできない。非同期の動作となる。

OLEオートメーションを使ったF*TRAN+の利用

F*TRAN+の処理を自関数としてコールし、メッセージやダイアログのコールバックを受け取ることもできる。詳細なエラーコードの判定ができ、F*TRAN+をアプリケーションの 一部として使用することができる。同期した動作となる。

第2章

インターフェース

2.1 インターフェース

F*TRAN+のOLEオートメーションのインターフェースは、つぎのとおりです。

インターフェース

IFtCmd	クライアントとのインタフェース	
メソッド		
Command	コマンドラインを実行し、終了後に復帰する。	
GetLastFtErrorCode	F*TRAN+ のリターンコードを獲得する。	
GetLastWinError	Win32 エラーまたはOLE エラーの最終値を獲得する。	
GetLastMessage	実行ウインドウに出力された最終エラーメッセージを獲得する。	
SetOwnerWindow	オーナーウインドウを設定する。	
MessageBoxValue	OnMessageBox の戻り値を設定する。	
	OnMessageBox の中で使用する。	
DialogBoxValue	OnDialogBox の戻り値を設定する。	
	OnDialogBox の中で使用する。	
SelectWFile	ファイル選択ウインドウから選択したファイルを通知する。	
SetCurrentDirectory	カレントディレクトリを設定する。	
GetCurrentDirectory	カレントディレクトリを取得する。	
GetInstalIDirectory	F*TRAN+ のインストールディレクトリを取得する。	
IFtSink	コールバックのインタフェース	
メソッド		
OnStart	コマンド開始のタイミングで呼ばれる。	
OnEnd	コマンド終了のタイミングで呼ばれる。	
OnProgress	処理中の%進行表示のために呼ばれる。	
OnMessageBox	メッセージボックス表示の直前に呼ばれる。	
	MessageBoxValue で戻り値が設定されると、	
	F*TRAN+ のメッセージボックスは表示されない。	
OnEndMessageBox	メッセージボックス終了直後に呼び出される。	
OnDialogBox	ダイアログボックス表示の直前に呼ばれる。	
	DialogBoxValue で戻り値が設定されると、	
	F*TRAN+ のダイアログボックスは表示されない。	
OnEndDialogBox	ダイアログボックス終了直後に呼び出される。	
IFtQuit	中止を指示するインタフェース	
メソッド		
Quit	実行中のコマンドの中止を指示する。非同期。	

全体の流れの参考図



第2章 インターフェース ——

IFtCmd のメソッド IFtCmd::Command long Command(BSTR pCmd); パラメータ pCmd コマンドラインと同じコマンド文字列を指定する。 リターン 正常 0 0 以外 エラー コマンドの開始点である。 説明 実行終了後に復帰する。 実行中にコールバックが呼び出される。

IFtCmd::GetLastFtErrorCode

long GetLastFtErrorCode(

);

パラメータ	なし。
リターン	F*TRAN+ のリターンコード。
説明	F*TRAN+ のリターンコードが得られる。
	リターンコードは Command メソッド終了後、または、OnEnd コールバック
	時に有効である。

IFtCmd::GetLastWinError

long GetLastWinError(
);

パラメータ なし。

リターン Win32 エラーまたは OLE エラー。

説明 Win32 エラーまたは OLE エラーの最終値が得られる。 リターンコードは Command メソッド終了後、または、OnEnd コールバック 時に有効である。 IFtCmd::SetOwnerWindow Iong SetOwnerWindow(long hWnd

);

パラメータ

hWnd

0

オーナーウインドウのハンドル。

正常

リターン

0 以外 エラー 説明 実行ウインドウのオーナーウインドウを設定する。 実行ウインドウが表示されないときには、 メッセージボックスやダイアログボックスのオーナーウインドウとなる。 オーナーウインドウを設定しないと、デスクトップがオーナーウインドウ になる。 Command 、SelectWFile の呼び出し前に設定する。 また、hWnd が無効になったときは hWnd を 0 として呼び出す。

IFtCmd::GetLastMessage

BSTR GetLastMessage(

-);
- パラメータ なし。
- リターン 実行ウインドウに出力された最終エラーメッセージ。

説明 実行ウインドウの最後のメッセージが得られる。

> 最終的に正常でも途中でエラーがあったときには、そのエラーメッセージ になる。

メッセージボックスに表示されたエラーメッセージを、このメソッドで 得ることはできない。

最終エラーメッセージは Command メソッド終了後、または、OnEnd コール バック時に有効である。

第2章 インターフェース -

IFtCmd::MessageBoxValue Iong MessageBoxValue(long IId); メッセージボックスの終了コードを指定する。 パラメータ lld 0 は、このメソッド呼び出しなしと同じである。 リターン 0 説明 OnMessageBox 内部で使用する。 メッセージボックスの戻り値を F*TRAN+ に知らせる。 F*TRAN+ は、その値に対応する処理に制御を移す。 このメソッドが呼び出されないとき、または IId に 0 が設定されると、 F*TRAN+ は、自身のメッセージボックスを表示する。

IFtCmd::DialogBoxValue

long DialogBoxValue(
 long IId,

BSTR IpEdit

);

パラメータ IId ダイアログボックスの戻り値を指定する。 0 は、このメソッド呼び出しなしと同じである。 IpEdit ""固定。 リターン 0

説明 OnDialogBox 内部で使用する。 ダイアログボックスの戻り値を F*TRAN+ に知らせる。 F*TRAN+ は、その値に対応する処理に制御を移す。 このメソッドが呼び出されないとき、または IId に 0 が設定されると、 F*TRAN+ は、自身のダイアログボックスを表示する。

```
IFtCmd::SelectWFile
BSTR SelectWFile(
BSTR lpTitle,
BSTR lpDrive,
BSTR lpFilter,
long llndex
```

);

パラメータ	lpTitle	ウィンドウのタイトルを指定する。	
	IpDrive	ファイルのあるドライブのパス名を指定する。	
	lpFilter	選択するファイルの種類をファイルフィルタで指定する。	
		例: "F*TRAN+スクリプトファイル(*.fp5) *.fp5 "	
	IIndex	ファイルフィルタの何番目を規定値とするかを指定する。	
リターン	選択されたファイル名。		
	キャンセル	またはエラーのときには、""となる。	
説明	ファイル選	択ウインドウが表示される。	
	オペレータが選択したファイル名が復帰情報となる。		
	復帰情報と	して返されたファイルが必ず存在するとは限らないので注意	
	すること。		

```
IFtCmd::SetCurrentDirectory
    long SetCurrentDirectory(
        BSTR lpPath
    );
```

パラメータ	IpPath	カレントとして設定するパス名
リターン	正常終了	の場合は0。

エラーのときには、GetLastError の値。

説明 Command メソッド呼び出し前に設定する。実行途中で変更したときの結果 は予想できない。

IFtCmd::GetCurrentDirectory

```
BSTR GetCurrentDirectory(
```

```
);
```

リターン 取得したカレントディレクトリ。 エラーのときには、""を返す。 IFtCmd::GetInstallDirectory BSTR GetInstallDirectory(); パラメータ なし。 リターン 取得した F*TRAN+ のインストールディレクトリ。

IFtSinkのメソッド(コールバック)

IFtSink::OnStart void OnStart(); パラメータ なし。 リターン なし。 説明 Command 呼び出し直後に呼び出される。 実行ウインドウが表示される前のタイミングである。 IFtSink::OnEnd void OnEnd(long IReturnCode); IReturnCode Command のリターンコードと同じ。 パラメータ リターン なし。 説明 Command の終了時に呼び出される。 IFtSink:: 0nProgress void OnProgress(long IPercent); パラメータ IPercent 1-100 までの進行状況である。 リターン なし。 説明 処理中の%進行表示のために呼ばれる。 呼ばれる率を制御することはできない。

IFtSink::OnMessageBox void OnMessageBox(long IFtFlag, long hWnd, BSTR IpText, BSTR IpCaption, long IType); パラメータ メッセージボックスの種類 IFtFlag オーナーウインドウ h₩nd lpText テキストへのポインタ タイトルへのポインタ IpCaption IType メッセージボックスのボタンタイプ リターン なし。 説明 F*TRAN+ がメッセージボックスを表示する直前に呼び出される。 MessageBoxValue を呼び出し、メッセージボックスの戻り値を設定すると、 F*TRAN+ はメッセージボックスを表示しない。 C言語のクライアントでWin32 関数::MessageBox()を IFtFlag を除いた パラメータで呼び出せば、F*TRAN+ と同じメッセージボックスになる。

```
IFtSink::OnEndMessageBox
```

```
void OnEndMessageBox(
long IId
);
パラメータ IId メッヤージボックスの戻り値である。
```

ハノメータ	Thu メッピーンホックスの広り直てのる
リターン	なし。
説明	メッセージボックス終了直後に呼び出される。

IFtSink::OnDialog	gBox			
void OnDialogBox(
long IFtFlag,				
long hWnc	ł,			
BSTR IpTe	ext,			
BSTR IpCa	aption,			
long ITyp	be			
);				
パラメータ	IFtFlag	ダイアログボックスの種類		
	h₩nd	オーナーウインドウ		
	IpText	テキストへのポインタ		
	pCaption	タイトルへのポインタ		
	ІТуре	ダイアログボックスのボタンタイプ		
リターン	なし。			
説明	ダイアログボックス表示の直前に呼ばれる。			
	DialogBoxValueを呼び出し、ダイアログボックスの戻り値を設定すると、			
	F*TRAN+ はダイアログボックスを表示しない。			
IFtSink::OnEndDia	alogBox			
void OnEndDia	alogBox(
long IId				
);				
パラメータ	lld	ダイアログボックスの戻り値である。		

リターン	なし。
	~~ し。

説明 ダイアログボックス終了直後に呼び出される。

IFtQuit のメソッド

IFtQuit::Quit long Quit(); パラメータ なし。 リターン 0

説明 中止を指示する。

このメソッドは中止を指示するだけなので、実際にコマンドが中止されるのは、このメソッドから復帰したときではない。

メッセージボックス、ダイアログボックスの種類

FT_MB_QUERY一般的な問い合わせ。(注:参照)FT_DLG_GETPUT_SKIP変換時の問合わせ・確認。

注) FT_MB_QUERY には、つぎのようなものがある。

- 1)オペレーションの要求、MB_OKCANCEL
- 2)エラーの表示、MB_OK
- 3)進行確認、MB_OKCANCEL
- 4)進行確認、MB_YESNO

メッセージボックス、ダイアログボックスのボタンタイプ

₩in32 定義(メッセージボッ	クス、お	よび、ダイアログボックス)
MB_OK	戻り値	IDOK
MB_OKCANCEL	戻り値	IDOK、 IDCANCEL
MB_RETRYCANCEL	戻り値	IDRETRY、 IDCANCEL
MB_YESNO	戻り値	IDYES, IDNO
F*TRAN+の追加定義(ダイア	ログボッ	クスのみ)
FT_DLG_ALLCANCEL	戻り値	IDOK、FT_IDALL、IDCANCEL、FT_IDALLCANCEL

注) OnMessageBox の IType は上記の値にメッセージボックスのスタイルのフラグがOR されている。上記の値を抜き出すためにはつぎのように Win32 定義の値でマスクする 必要がある。 (MB_TYPEMASK & IType)

メッセージボックス、ダイアログボックスの戻り値

Win32 定義(メッセージボックス、および、ダイアログボックス)

- IDOK
- IDCANCEL
- IDABORT
- IDRETRY
- IDIGNORE

IDYES

I DNO

F*TRAN+の追加定義(ダイアログボックスのみ)

FT_IDALL

FT_IDALLCANCEL

2.2 リターンコード

正常終了コード 0:正常終了コード 再試行が可能な終了コード 1001:メディアがセットされていない 1002:メディアが書き込み禁止 再試行が不可能な終了コード 9001:入力パラメータエラー 9002:使用できないときに使用した 9003:オペレータによるキャンセル 9004:システムのリソース不足、メモリ獲得失敗など 9005:システムのリソース不足以外のエラー発生 9006:システムのリソース不足のエラー発生 9007:特定できないエラー発生 9008:情報通知の事象発生 9009:フロッピーメディアエラー(読み込み時) 9010:フロッピーメディアエラー(読み込み時) 9011:フロッピードライブのエラー(IOエラー) 9012:フロッピーメディアのエラー(読み込み時) 9013:フロッピーに入力ファイルがない 9014:フロッピーに出力ファイルがすでにある 9015:ファイルがライトプロテクトである 9016:フロッピーのインデックスがすでにいっぱい 9017:フロッピーの空き領域がない 9018:ファイルが異常な形式である 9019:F*TRAN でサポートされない形式のファイル 9020:フロッピーが異常な形式である 9021: F*TRAN でサポートされない形式のフロッピー 9022:ボリューム番号が正しくないフロッピー 9023: Windows ファイルの作成でエラー発生 9024:Windows ファイルのオープンでエラー発生 9025:Windows ファイルのクローズでエラー発生 9026:Windows ファイルのリードでエラー発生 9027:Windows ファイルのライトでエラー発生

(E_FT_NORMAL)

(E_FT_DEVICE_NOT_READY) (E_FT_PROTECTED_DISK)

(E_FT_PARAMETER) (E_FT_PROTOCOL) (E_FT_CANCELED) (E_FT_INSUFFICIENT_RESOURCES) (E_FT_WIN_ERROR) (E_FT_LIMIT_EXCEEDED) (E_FT_UNKNOWN) (E_FT_INFORMATION) (E FT NO DATA) (E_FT_CRC_ERROR) (E_FT_IO_ERROR) (E_FT_INCORRECT_DRIVE) (E_FT_NO_SUCH_FILE) (E FT ALREADY EXISTS) (E FT PROTECT FILE) (E_FT_INDEX_FULL) (E_FT_NO_SPACE) (E FT INVALID FILE) (E_FT_UNSUPPORTED_FILE) (E FT INVALID DISK) (E_FT_UNSUPPORTED_DISK) (E_FT_VOLUME_SEQUENCE) (E FT CREATE FAILED WIN) (E_FT_OPEN_FAILED_WIN) (E_FT_CLOSE_FAILED_WIN) (E FT READ FAILED WIN) (E_FT_WRITE_FAILED_WIN)

9028:HOST ファイルの作成でエラー発生 (E_FT_CREATE_FAILED_HOST) 9029:HOST ファイルのオープンでエラー発生 (E_FT_OPEN_FAILED_HOST) 9030:HOST ファイルのクローズでエラー発生 (E_FT_CLOSE_FAILED_HOST) 9031:HOST ファイルのリードでエラー発生 (E_FT_READ_FAILED_HOST) 9032:HOST ファイルのライトでエラー発生 (E_FT_WRITE_FAILED_HOST) 9033:設定ファイルの作成でエラー発生 (E_FT_CREATE_FAILED_SET) 9034:設定ファイルのオープンでエラー発生 (E_FT_OPEN_FAILED_SET) 9035:設定ファイルのクローズでエラー発生 (E_FT_CLOSE_FAILED_SET) 9036:設定ファイルのリードでエラー発生 (E_FT_READ_FAILED_SET) 9037:設定ファイルのライトでエラー発生 (E_FT_WRITE_FAILED_SET) 9038:設定ファイルまたは MAP 指定エラー (E_FT_INVALID_DATA) 9039:設定ファイルやパラメータ設定に矛盾がある (E_FT_INCONSISTANT) メッセージボックス、ダイアログボックスの類別コード 1:一般的な問い合わせ (FT_MB_QUERY) 2: リトライの問い合わせ (FT_MB_RETRY) 3:重要障害による処理中断の表示 (FT_MB_FATAL) 4:メディアの交換指示(マルチボリューム) (FT_MB_MV_CHANGE_VOLUME) 5:メディアの交換指示(マルチボリューム以外) (FT_MB_CHANGE_VOLUME) 6: 複数ファイル変換時のスキップ確認ダイアログ (FT_DLG_GETPUT_SKIP) 7:複数ファイル削除時の確認ダイアログ (FT_DLG_DELETE_SKIP) 8: ディスクコピー時のフォーマット確認ダイアログ (FT_DLG_DCFORMAT_SKIP) 9:ディスクコピー時のフォーマットのエラーダイアログ(FT_DLG_DCFORMAT_ERROR) 10:フォーマットの確認ダイアログ (FT DLG FORMAT INPUT) 11:フォーマットの確認ダイアログ (FT DLG FORMAT OK CANCEL) 12:フォーマットの確認ダイアログ(確認のみ) (FT_DLG_FORMAT_OK) 13:Windows ファイル 一覧表示ダイアログ(SelectWFile) (FT_DLG_W_REFERENCE) 14: IBM ファイル 一覧表示ダイアログ(Select IFile) (FT DLG | REFERENCE) ダイアログボックスのタイプ 15:はい、すべて変換、いいえ、キャンセル (FT_DLG_ALLCANCEL) 16: OK、すべて削除、いいえ、キャンセル (FT_DLG_SKIPCANCEL) ダイアログボックスの終了コード 1006: すべて変換、すべて削除 (FT_IDALL)

1008:キャンセル

1282:スキップ

(FT_IDALLCANCEL)

(FT_IDSKIP)

第3章

オートメーションサンプル

第3章 オートメーションサンプル ――

3.1 Visual C++のサンプル

Visual C++からF*TRAN+のOLEオートメーション機能を使用したサンプ ルプログラムについて説明します。

このサンプルプログラムはVisual C++バージョン5以上で動作します(バージョン 5の形式で作成されています)。F*TRAN+インストールディレクトリの中にあるOle ¥Vc¥Olesmplのワークスペースを開きます。

バージョン6以上のVisual C++をお使いの場合はワークスペースを開く時にワー ニングダイアログが出力されますが、OKボタンをクリックすれば現行のバージョンの形式に更 新されます。

以下、サンプルソース重要部分の抜粋です。

// このサンプルプロジェクトの作成手順(Visual C++ 5.0)

- // このプロジェクトでは、F*TRAN+ のマンマシンインターフェイスを完全に隠した形
- // で変換処理を行うプログラムを作成しています。エラーメッセージも F*TRAN+ のも
- // のをマスクして表示しているため、ユーザーは F*TRAN+ の存在を意識することがあ
- // りません。
- // このプロジェクトは以下の手順で作成されました。
- // Microsoft Developer Studio を起動する。
- // 「ファイル」メニューから「新規作成」をクリックする。
- // 「プロジェクト」タブから「MFC AppWizard (exe)」を選択する。
- // 「プロジェクト名」に「OLESAMPL」と入力し「OK」を押す。
- // 「ダイアログベース」ラジオボタンをクリックし「次へ」を押す。
- // 「オートメーション」チェックボックスを有効にし「次へ」を押す。
- // 「次へ」「終了」「OK」の順に押し、プロジェクトを新規作成する。
- // 「表示」メニューから「ClassWizard」をクリックする。
- // 「メッセージマップ」タブから「クラスの追加」を押す。
- // 「タイプライブラリから...」をクリックし、提供テーブルファイル(FTWIN.TLB)
- // をインポートする。
- // 「クラスの確認」ダイアログで、生成したいクラスを選択し「OK」を押す(ここ
- // では「IFtCmd」のみ)。
- // 「OK」を押し MFC ClassWizard を閉じる。
- // ClassWizard によって自動生成されたヘッダファイル(Ftwin.h)をインクルード
- // する。

= 第3章 オートメーションサンプル

```
#include "ftwin.h"
11
    OnOK() 内に以下のようにコードを実装する。
void COLESAMPLDIg::OnOK()
{
   // ------ ここから ----- //
   IftCmd FtCmd;
   Cstring strCode;
   int
         retCode;
   // サーバーオブジェクトを作成する
   if (FtCmd.CreateDispatch("Ftplus.FtCmd", NULL) == 0)
   {
      // エラー
      MessageBox("FtCmd.CreateDispatch にてエラーが発生しました.");
      return;
   }
   // 変換コマンド(ここでは"getdata")において、変換元・先ファイルを絶対パスで
   // 指定しない場合は、カレントディレクトリをあらかじめ指定しておく必要がある
   if ((retCode = FtCmd.SetCurrentDirectory("C:\\FTRANP")) != 0)
   {
      // サーバーオブジェクトへの接続を開放する
      FtCmd.ReleaseDispatch();
      // エラーコードを表示して戻る
      strCode.Format("FtCmd.SetCurrentDirectory にてエラーが発生しました. ¥n エラー
番号:%d", retCode);
      MessageBox(strCode);
      return;
   }
```

第3章 オートメーションサンプル ――

}

```
// ここではパラメータファイルのパスが省略されているので、パラメータファイルを
  // F*TRAN+ と同じフォルダに格納する必要がある
   if (FtCmd.Command("/nwd /wc/ getdata PLANET PLANET.GET ++PNGETPRN.P") != 0)
  {
     // エラー:提供ファイル FtDef.h に定義されている終了コードを取得する
     retCode = FtCmd.GetLastFtErrorCode();
     // サーバーオブジェクトへの接続を開放する
     FtCmd.ReleaseDispatch();
     // エラーコードを表示して戻る
     strCode.Format("FtCmd.Command にてエラーが発生しました. ¥n エラー番号:%d",
retCode);
     MessageBox(strCode);
     return;
  }
  // サーバーオブジェクトへの接続を開放する
  FtCmd.ReleaseDispatch();
  // 変換結果をメモ帳で表示し、自分は終了する
  SetCurrentDirectory("C:¥¥FTRANP");
  WinExec("NOTEPAD.EXE PLANET.GET", SW_SHOW);
  // ------ ここまで ----- //
   if (CanExit())
     CDialog::OnOK();
//
    必要に応じてリソースを編集する(ここではメインダイアログに F*TRAN+ のアイ
```

```
11
   コンを貼り付けている)。
   「ビルド」メニューから「リビルド」をクリックし EXE を作成する。
11
```

—— 第3章 オートメーションサンプル

3.2 Visual Basicのサンプル

Visual BasicからF*TRAN+のOLEオートメーション機能を使用したサ ンプルプログラムについて説明します。

このサンプルプログラムはVisual Basicバージョン5以上で動作します(バージョン5の形式で作成されています)。F*TRAN+をインストールしたOle¥Vbディレクトリの中につぎファイルがありますので、プロジェクトを開いてください。

Project1.vbp

以下、サンプルソースです。

'このサンプルプログラムは Visual Basic 5.0 以上で動作します。

'------ このサンプルプロジェクトの作成手順 --------

' Visual Basic を起動する。

- '「ファイル」メニューの「新しいプロジェクト」をクリックして、
- '「新規作成」タブの「ActiveX EXE」をダブルクリックする。
- '「プロジェクト」メニューから「標準モジュールの追加」をクリックして、
- '「新規作成」タブの「標準モジュール」を開く。
- ' 「プロジェクト」メニューから「フォームモジュールの追加」をクリックして、
- '「新規作成」タブの「フォームモジュール」を開く。
- '「プロジェクト」メニューから「Project1のプロパティ」をクリックして、
- ' 「プロジェクトプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブの中の
- ' 「スタートアップの設定」を「Sub Main」にする。
- '次に「コンポーネント」タブをクリックして、「スタートモード」を
- '「独立型」にして、「OK」を押す。
- '「プロジェクト」メニューから「参照設定」をクリックして「参照」ボタンを押し、
- 'F*TRANの提供テーブルファイル(Ftwin.tlb)を開く。
- 'リストボックスに「Ftwin」が表示され、チェックが着いていることを確かめて、
- '「OK」ボタンを押す。
- ' クラスモジュールのプロパティの「Instancing」が「5‐MultiUse」に
- ' なっているか確かめる。
- ' 必要に応じてフォームを編集する(ここでは Form1 にボタンを2つ追加している)。
- ' 以下のようにコードを実装し、「ファイル」メニューの「Project1.exe の作成」を ' クリックする。

第3章 オートメーションサンプル ――

'----- 標準モジュール ------

Option Explicit Sub Main() Form1.Show End Sub

.

'-----ル ------ フォームモジュール ------

Option Explicit Dim FtCmd As Ftwin.FtCmd '変換が正常に終了したら、その内容を表示する

Private Sub Command1_Click() Dim ret As Long Dim command As String Dim msg As String

'変換コマンド(ここでは"getdata")において、変換元・先ファイルを絶対パスで '指定しない場合は、カレントディレクトリをあらかじめ指定しておく必要がある ChDrive "c:" ChDir "c:¥FTRANP" ret = FtCmd.SetCurrentDirectory("c:¥FTRANP")

'エラー処理 If ret <> 0 Then msg = "FtCmd.SetCurrentDirectoryにてエラーが発生しました。"_ & Chr(13) & "エラー番号:" & ret MsgBox msg, vbOKOnly, "F*TRAN+" Exit Sub End If

'ここではパラメータファイルのパスが省略されているので、パラメータファイルを 'F*TRAN と同じフォルダに格納する必要がある command = "/nwd /wc/ getdata Planet *.txt ++pngetprn.p" ret = FtCmd.command(command) 'エラー処理

If ret <> 0 Then

'提供ファイル FtDef.h に定義されている終了コードを取得する

- ret = FtCmd.GetLastFtErrorCode
- msg = "FtCmd.command にてエラーが発生しました。" _

& Chr(13) & "エラー番号:" & ret

MsgBox msg, vbOKOnly, "F*TRAN+" End lf

'変換結果をメモ帳で表示

```
Shell "notepad.exe Planet.txt", vbNormalFocus
End Sub
```

```
Private Sub Command2_Click()
'サーバーオブジェクトへの接続を開放する
Set FtCmd = Nothing
End
End Sub
```

```
Private Sub Form_Load()
'サーバーオブジェクトを作成する
Set FtCmd = New Ftwin.FtCmd
End Sub
```

```
Private Sub Form_Unload(Cancel As Integer)
'サーバーオブジェクトへの接続を開放する
Set FtCmd = Nothing
End Sub
```

第3章 オートメーションサンプル。

3.3 Excelのサンプル

ExcelからF*TRAN+のOLEオートメーション機能を使用したサンプルについて 説明します。このサンプルはExcel97/Excel2000で動作します。

このサンプルを使うと、ホストファイル(ここではScore)のデータをF*TRAN+を 使ってコード変換(スクリプトファイル"Get成績表.fp5"を使用)し、Excelの中 にあらかじめ作成された表(2年A組成績表)に対しデータを流し込むことができます。

このサンプルでは途中の操作が入っていますが、それらを省略して処理することも可能です。

サンプル実行の手順

Excelを立ち上げ、F*TRAN+インストールディレクトリの中にあるOle¥Exc
 el¥Xlftplus.xlsを開きます。マクロ無効/有効のダイアログが表示されたら、
 "マクロを有効にする"を選択します。

ツール(<u>T</u>)メニューのマクロ(<u>M</u>) マクロ(<u>M</u>)…を選択するとつぎのダイアログが開き ますので、実行(<u>R</u>)ボタンをクリックします。 ————

700		? ×
7/11名(M):		
ファイル挿入	3.	実行(R)
ファイル挿入 プラネット読込み	<u>~</u>	キャンセル
		ステッフ° イン(<u>S</u>)
		編集(E)
		作成(C)
	7	削除(<u>D</u>)
マ加の保存先(<u>A</u>):	開いているすべてのブック 🗾	オプション(_)
a/L ⁴ /J		

ここでサンプルが立ち上がります。

このサンプルの処理内容を記述したダイアログが立ち上がりますので、OKボタンをクリックします。

ファイル挿入	×
*** ファイル挿入マクロ ***	
機能: ワークシートに、ファイルを挿入します。ファイルは、Windowsファイル(デリミタ形式)、F*TRAN+経由でのホスト: イルが遅ぐます	ファイルやWindowsファ
ウークシートには、あらかじめ表組みをしておき、2行の空きの行を用意しておきます。その1行目は、開始行です 役割をし、空項目の代わりに埋め込む値や計算式などを設定しておきます。2行目は、末端行です。開始行と 式などが有効に使えるわけです。挿入が完了した時点で、開始行、末端行は削除されます。	す。開始行はひな型の と末端行を含む計算
手順: 1.あらかじめ、挿入開始位置のセルを選択しておきます(開始行の左端)。 2.Excelの、ツール>マクロ>マクロ>「ファイル挿入」>実行、を選びます。 3.このダイアログが出ます。OKします。以降、ダイアログに従って操作してください。	
OK キャンセル	

つぎのダイアログが表示されたら、"F*TRAN+経由で、Windowsファイルから入力"の"2"を入力し、OKボタンをクリックします。 __

ファイル挿入 - 入力元指定		×
入力元を指定してください。	0	k I
1/W - Windowsファイルから入力 2/P - F*TRAN+経由で、Windowsファイルから入力	++>	tıl
2		

つぎのダイアログが表示されたら、処理するスクリプトファイル"Get成績表.fp5"を 選択し、OKボタンをクリックします。

6	7ァイル挿入 - F*TRA	N+のスクリプトファイル名指定				?	x
N	ファイルの場所型:	Excel	_	E	1 📥	0-0- 0-0-	2010
	了GetPlanet.fp5 夏Get成績表.fp5						
	ファイル名(N):	Get成績表.fp5)K	
	ファイルの種類(工):	F*TRAN+スクリプトファイル(*.fp5)		•	キャン	ッセル	

ファイル挿入:処理する	SWindowsファイル指定						(X
ファイルの場所型:	Excel	•	E	<u></u>	Ċ	0-0- 5-5- 0-0-	
😿 GetPlanet.fp5							10
Get成績表.fp5							15
Score							-53
Score.csv							
Xlftplus.xls							
-							
				- 6			-
ファイル名(11):	JScore	 		. 4	(ж	
ファイルの種類(工):	すべてのファイル(**)	 		7 6	キャ	ンセル	
	1	 	- 1				

つぎのダイアログが表示されたら、OKボタンをクリックします。

ファイル挿入	×
ファイル:	
C:¥FTRANP¥OLE¥Excel¥Score	10
を、選択されたセルを起点にして挿入します	r.
● OK キャンセル	100

"F*TRAN+経由で、Windowsファイルから入力"の処理が実行されて、つぎのような状態になります。そして、B19セルに"1"を入力すれば完了です。

―― 第3章 オートメーションサンプル

🗙 Mic	rosoft Exc	el - Xlftj	olus.xls								_ 🗆 ×
127	ファイル(E) 綿	騙(E)	表示── 挿入仰 書	︎【弐◎) ツール(<u>T) データ(D</u>)	ሳብ≻ኮታ₩)	^ルフ°(<u>H</u>)				<u>_ 8 ×</u>
	🛩 🖬 (é	5 🗟	😵 🖪 🐇 🖤	ダ 🔊 - ೧	i 🗸 🍓 😤	Σf_{x}		L 🔮 🛷	100% 👻 🦉)	
MS	Pゴシック		• 11 • B I	u ≣ ≣		7%,	+.0 .00 ₹		- 🕭 - <u>A</u>	•	
	B20	-	= =B19+1	_ 1		•					2712
	A	В	C	D	E	F	G	Н	I	J	К 🗖
15											
16			2年A組成	え績表							
17											
18		No.	氏名	国語	数学	英語	理科	社会	合計点		
19		_ <mark>} 1</mark>	A子	欠	90	70	75	60	295		
20		2	<u> </u>	55	欠	70	100	100	325		
21		3		90	70	75	80	80	395		
22		4	ロ介	80	85	75	欠	80	320		
23		5	<u> </u>	75	60	60	75	欠	270		
24		_	最高点	90	90	75	100	100	395		
25		_	平均点	75	76.25	70	82.5	80	321		
26			し 最低点	55	60	60	75	60	270		
27											
28											
29											
30											
31											
33											
		主 /回	anat /							1	
ا ∎ ∎ ∎ا ^الاتحد		<u>tav</u> (Fik	anery						NI	IM I	
13.21							1]	j jnc		

ここに"1"を入力すれば、処理は完了となる。

サンプルのマクロソースの確認

ツール(<u>T</u>)メニューのマクロ(<u>M</u>) マクロ(<u>M</u>)…を選択するとつぎのダイアログが開き ますので、編集(<u>E</u>)ボタンをクリックします。内容を確認します。——

/クロ		? ×
7加名(<u>M</u>):		
ファイル挿入		実行(<u>R</u>)
ファイル挿入 ブラネット読込み	<u>×</u>	キャンセル
		ステッフ。イン(⑤)
		作成(C)
	×	削除(<u>D</u>)
マ如の保存先(<u>A</u>): 1988	開いているすべてのブック・	オプジョン(<u>O</u>)
6/L /J		

第3章 オートメーションサンプル —

以下、サンプルのマクロソース重要部分の抜粋です。

```
'F*TRAN Plus 経由で Windows ファイルを得る
Function GetWithFtranPlus(strMacroName As String) As String
   Dim objFp As Object
   Dim strScriptFileName As String
   Dim IngRc As Long
   Dim strFileName As String
   Set objFp = CreateObject("Ftplus.FtCmd")
   strScriptFileName = objFp.SelectWFile( _
           strMacroName & " - F*TRAN+のスクリプトファイル名指定", _
           CurDir(), _
           "F*TRAN+スクリプトファイル(*.fp5)|*.fp5|", 1)
    If strScriptFileName = "" Then
       GetWithFtranPlus = ""
       Exit Function
   End If
   strFileName = objFp.SelectWFile( _
           strMacroName & " - 処理する Windows ファイル指定", _
           CurDir(), _
           "すべてのファイル(*.*)|*.*|", 1)
   GetWithFtranPlus = strFileName
    If strFileName = "" Then
       Exit Function
   End If
    IngRc = objFp.Command(Quote(strScriptFileName) & _
                   " -h " & Quote(strFileName) & _
                   "-w " & Quote(TempFile()))
    If IngRc <> 0 Then
       MsgBox "エラーが発生しました。" & vbCrLf & vbCrLf & _
               objFp.GetLastMessage, , strMacroName
   End If
End Function
```

プラネット読込みサンプルについて

Excelのサンプルの中には、ホストファイル"Planet"をF*TRAN+を使って コード変換(スクリプトファイル"GetPlanet.fp5"を使用)して、Excelの シートの中に流し込むサンプルも入っています。

以下、サンプルのマクロソース重要部分の抜粋です。

```
簡易読み込みマクロ for F*TRAN+
Sub プラネット読込み()
   Dim objFp As Object
   Dim IngRc As Long
   'F*TRAN + のオブジェクトを作成します。
   Set objFp = CreateObject("Ftplus.FtCmd")
   'F*TRAN + にコマンドラインを投入します。
   IngRc = objFp.Command(Quote(objFp.GetInstallDirectory() & _
                     "¥Ole¥Excel¥GetPlanet.fp5") &
                     " -h " & Quote(objFp.GetInstallDirectory() & "¥planet") & _
                     "-w " & Quote(TempFile()))
   'エラーのときは、メッセージを表示します。
   If IngRc <> 0 Then
      MsgBox "エラーが発生しました。" & vbCrLf & vbCrLf & _
             objFp.GetLastMessage, , "プラネット読込み"
      Exit Sub
   End If
   IngRc = LoadPlanet(TempFile())
   If IngRc <> 0 Then
      MsgBox "エラー:" & IngRc, , "プラネット読込み"
   End If
```

```
End Sub
```

F*TRAN+ V3.0 操作説明書・プログラム応用編

2000年 10月 第1版発行

編集・著作 株式会社 富士通ビー・エス・シー 所 在 地 〒108-8531 東京都港区芝浦 4 - 15 - 33 芝浦清水ビル プ ロダクツ&サービス事業部 TEL 03 - 5445 - 2101 FAX 03 - 5445 - 2109

- ・Windows、MS-DOS、Visual C++、Visual Basic、Excel は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・会社名および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・本書およびシステムは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・無断複製、および転載を禁じます。
- ・落丁、乱丁はお取り替えいたします。